

14. 薬学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況	39)
(分析項目Ⅱ 教育成果の状況	39)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 24 年度「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」に参加している。このプログラムは、「充実した医学研究環境に触れつつ工学や薬学を学ぶ」という発想で、工学や薬学の基礎・応用研究に加えて医学の基礎から臨床、介護までを学び、医学、工学、薬学の垣根を越えた新しい研究領域を開拓していくことができるリーダー育成を目的としている。また、医学研究科等と連携して、令和元（2019）年度卓越大学院プログラム「メディカルイノベーション大学院プログラム」に申請し、採択された。
- 研究指導は、独創性及び難易度の高い研究課題を設定し、教員と学生の自由な発想と自主的な取り組みを尊重した双方向の対話を積極的に行うことで、個人の研究素養の向上を目指している。大学院学生については、個々のテーマを与え、自主的に研究を行うと共に、それぞれの研究の進捗状況を適宜指導教員がチェックし、研究レベルの充実、強化を図っている。また、セミナーの時間に研究室全員の前で発表させ、研究戦略・戦術の立て方を指導している。これに関連して、学修成果の可視化として、京都大学作成の E-ポートフォリオを利用した研究計画書及び研究報告書の作成を令和元年度から導入した。これにより、研究の到達目標や目標の達成度が学生・教員ともに確認できる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。